

## ■『中級日本語カルテット I』増刷修正一覧

増刷の際に修正をした箇所をリストにしました。

テキスト2ページ目のクレジットページ (Copyright page) に刷数 (Impression Number) が入っていますので、お手元のテキストの刷数をご確認ください。

### テキスト

第2刷 2nd	本冊 p. 009	修正	「3 N なら」の接続表：2つ目の説明 ・Y <del>in N なら</del> usually takes a positive comment.
	本冊 p. 064	修正	「桜の開花予想」地図に沖縄を追加
	本冊 p. 096	修正	「～円引」「お通し」にルビを追加
	本冊 p. 143	修正	「3. ～はずだ」の接続表 *N <del>だ</del> → <del>なの</del>
	本冊 p. 150	追加	「■書くポイント」の2 (行 12～13)
	本冊 p. 158	変更	「 <del>すし屋</del> 」→「 <del>カフェ</del> 」
	本冊 p. 160	変更	モデル会話「通行人」4つ目のセリフ後半 道なりに行くと左手に「ヨルトン」というホテルがあるから、その先の交差点をわた っ <b>そ</b> たら、 <b>すぐ</b> 左に曲がってください。 <b>すぐ</b> 右手に見えるはずですよ。 ※音声も変更されています。
	本冊 p. 161	変更	パートB「通行人」のセリフ後半 道なりに行くと左手に「ヨルトン」というホテルがあるから、その先の交差点をわた っ <b>そ</b> たら、 <b>すぐ</b> 左に曲がってください。 <b>すぐ</b> 右手に見えるはずですよ。
	本冊 p. 178	追加	「1. ～ (という) わけではない」の接続表：3つ目の説明3文目として以下を追加。 As <b>5</b> shows, in the case of N, it is often used in the form of N ( <b>だ</b> ) というわけ ではない rather than N なわけではない。
	本冊 p. 203	修正	「リスニング」2の指示文 「 <del>ソヨン</del> 」→「 <del>メイリン</del> 」
	本冊 p. 210	変更 追加	「C たとえ」の例文 <b>2</b> 3歳の <del>マ</del> -マコトくんはいつも元気で、子どもらしい。(Makoto is a child.)
	本冊 p. 212	修正	「A 尊敬動詞の3つの形」①の例 先生は今オフィスに <b>教室</b> にいらっしゃいます。(います)
	本冊 p. 227	追加	「1. 「は」と「が」の違い」3つ目の説明2文目 As such, important information is mentioned <i>before</i> the particle が (See <b>2</b> ).
	別冊 p. 010	修正	「限る」の意味 (See 文型・表現 <b>8・9</b> 「～とは限らない」)
	別冊 p. 011	変更	「7. 一般的な」の例文 「1,800 円」→「1,900 円」 ※音声も変更されています。

第3刷 3rd	本冊 p. 114	修正	「9. ～ば～のに」の例文[4] B: ううん。日本語力が足りなくて…。 もっと日本語が上手なら (ば) 採用してもらえるのに。
	本冊 p. 114	修正	「9. ～ば～のに」の例文[5] B: わあ、きれいな人だね。あーあ、僕たちの先生なら (ば) いいのに。

第4刷 4th	本冊 p. 010	変更	「3. ～とおり (に) /N とおり (に)」の4つ目の説明全体を以下に差し替え ・ The particle に can be used only when X とおり/どおり explains the manner in which the action expressed by the following verb is performed (as shown in [1], [2] and [4]). In other cases, に should be omitted ([3]).
	本冊 p. 089	変更	写真3点を変更
	本冊 p. 139	変更	写真5点を変更
	本冊 p. 144	修正	「はず and べき (L3-7)」の説明2～3行目 はず is used for the speaker's inferences, whereas X べき expresses the speaker's opinion on something (e.g., someone needs to do X, it is right/wrong to do X).

第5刷 5th	本冊 p. 014	修正	「～ないようになる ank ～なくなる」の説明 Both structures are used when the subject no longer does something that he/she used to do. However, ～なくなる is more common.
	本冊 p. 047	修正	ページ1行目の説明 ・ As shown in [2], [3] and [4], when X is a する-verb, a な-adjective or a noun, then the second X usually takes する or ある, rather than repeating the whole word (i.e., 勉強, 大変で and 値段が高い ホテルで would be omitted).
		修正	「8. (まるで) N のようだ」の2つ目の説明 ・ N みたいだ is a more colloquial version of N のようだ.
	本冊 p. 110	修正	「N (prt.) さえ」の5つ目の説明 ・ As in [3] and [4], when other particles are used, then さえ is attached to the particle.
	本冊 p. 111	修正	ページ1行目からの説明の3文目 The statement in [1 a) means that the speaker is content as long as he/she has some chocolate, and he/she doesn't need anything else.
	本冊 p. 179	変更	「1. ～ (という) わけではない」の2つ目の説明3文目を、3つ目の説明として分割 ・ As [5] shows, in the case of N, it is often used in the form of N (だ) というわけではない rather than N なわけではない.
	本冊 p. 181	修正	「4. ～がる」の3つ目の説明 ・ This structure typically takes the ている form (i.e., ～がっている), but it appears in the～がる form when making a comment about someone's tendency to desire/feel something ([5] and [6]), as opposed to an observed instance of someone desiring/feeling something.

## ワークブック

第2刷 2nd	p. 017	修正	2. (2)の「電子」にルビを追加
	p. 044	変更	「(1) 今学期のうちに何がしておきたいですか。」を、 「(1) 今学期のうちに何をしておきたいですか。」に変更
	p. 056	追加	(12) に「私の夢はです。」を追加
	p. 065	修正	2. の指示文「下のa～e」→「下のa～f」
	p. 092	追加	(2) の2行目に「ぼくに」を追加